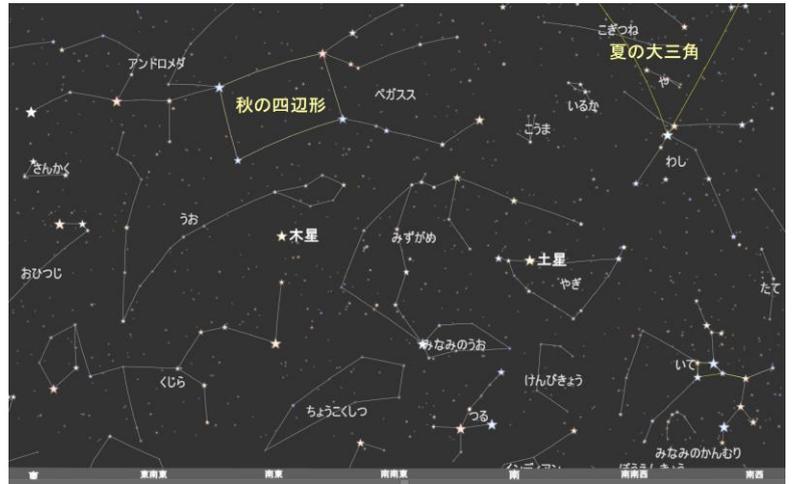


ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

図はステラナビゲーター11を用いて作成



10月中旬夜8時頃の天頂近くの西にはまだ《夏の三角形》が見えていますが、その東には《秋の四辺形》が昇っていて、南から東の空いっぱいには秋の星座が広がっています。秋の星座は暗い星が多いのですが、南の空の低いところに1等星である「みなみのうお座」のフォーマルハウトが白っぽく輝いています。フォーマルハウトはアラビア語で「魚の口」を意味し、そのすぐ上にある「みずがめ座」の水瓶から流れ落ちる

水が、「みなみのうお座」の魚の口に注がれています。その「みずがめ座」を中心に、東には大きなV字型をした「うお座」があり、西には下半身が魚という不思議な山羊を描いた「やぎ座」があるなど、この辺りには水に関係する星座が並んでいます。これらの星座は、今から5,000年以上もの昔、古代メソポタミアで考えられていたもので、その時代、秋は雨の多い季節でした。大地に恵みの水をもたらす雨を待ち望んだ人々は、秋の夜空に水と関係のある星座を描いて、雨期がやってくるのを知る目印にしたといわれています。

★ みなみのひとつぼし(南の一つ星) 【星の和名のお話】

秋の夜空は暗い星が多く、「南の一つ星」は、秋の1等星・フォーマルハウトに付けられた和名です。その後、静岡県駿東郡では「ひとつぼさん(一つ星さん)」、静岡県焼津市では船を進める目印として「船星」、若手県九戸郡では、秋の夕暮れの頃に出ることから「秋星」、などと呼んでいたそうです。



★ 今月も、月が土星と木星に接近

10月上旬、すっかり日が暮れた夜空には、南に土星、南東に木星が見えています。5日から9日にかけて、この2つの惑星に月が近づき、5日には土星の下に上弦の月が、9日には木星の左下に少し太った月が移動します。土星と木星の中間あたりを下にたどると、「みなみのうお」座の1等星フォーマルハウトが見つかります。先月の図と全く同じように見えて、3日ほど日付が変わります。



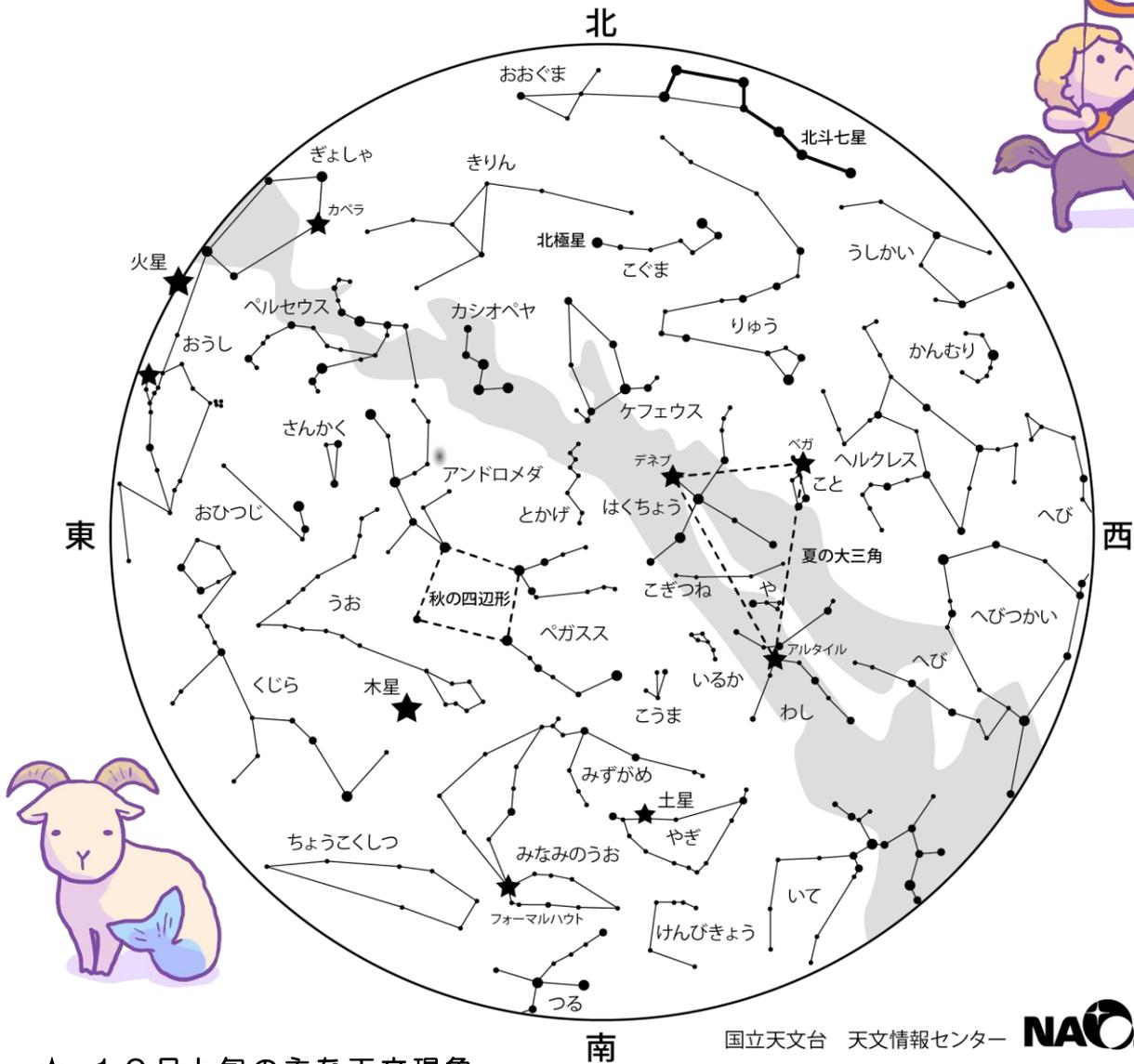
月は大きさを強調して描いています

★ 10月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 10/3(月)、11(火)、17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

10月上旬午後9時頃の星空



★ 10月上旬の主な天文現象

3日(月) ● 上弦 <small>じょうげん</small>	9日(日) 水星が西方最大離隔、 小惑星パラスとシリウスが接近
6日(木) 月と土星が接近 <small>どせい せつきん</small>	10日(月) ○ 満月 <small>まんげつ</small>
8日(土) 後の月(十三夜)、 月と木星が接近、寒露 <small>のちの月 じゅうさんや、 ちくせい かんる</small>	14日(金) 月と火星が並ぶ <small>かせい</small>

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 10/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 10月 4日(火) [見やすさ◎]	19:01 北西	~ 19:04 天頂
◇ 10月 5日(水) [見やすさ◎]	18:12 北西	~ 18:17 東南東
◇ 10月 6日(木) [見やすさ◎]	19:00 西北西	~ 19:04 南
◇ 10月 7日(金) [見やすさ◎]	18:11 北西	~ 18:17 南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。